

岡山駅交通結節点改善事業
(交通広場拡張整備・自由通路整備)

岡山市都市整備局街路交通課
課長補佐 荒木昭彦

1. 背景

岡山駅は1日あたり約12万人の乗降客を有する中四国で最大規模の拠点駅で、四国山陰地方への結節点となっている。

本市の都心部は、JR線により東西に分断され、駅付近における両地域を連絡する歩行者動線は、幅員3m程度の地下道が唯一の状況であり、駅東口周辺では一定の都市基盤整備を終え、商業業務施設の集積がなされていたが、駅西口周辺では、低層小規模建物が密集し人口の減少、商業の衰退など空洞化が進み、地域格差が生じていた。

また、東口広場内のバスターミナルは満杯状態で、広場に入りきれないバス乗り場が駅周辺に分散して不便なうえ、観光バスは乗り入れさえできない状況であった。

このため、西口周辺の活性化や、駅の交通結節機能強化を目的として、西口交通広場の拡張整備と、駅東西広場及び地域を結ぶ歩行者主動線となる自由通路を整備した。

また、JR西日本では、この事業に合わせ、駅の橋上化と、自由通路に面した線路上空において、商業施設の開発を行った。

2. 事業概要(図-1参照)

1) 西口交通広場

(都市計画道路上石井北方線岡山駅西口交通広場)

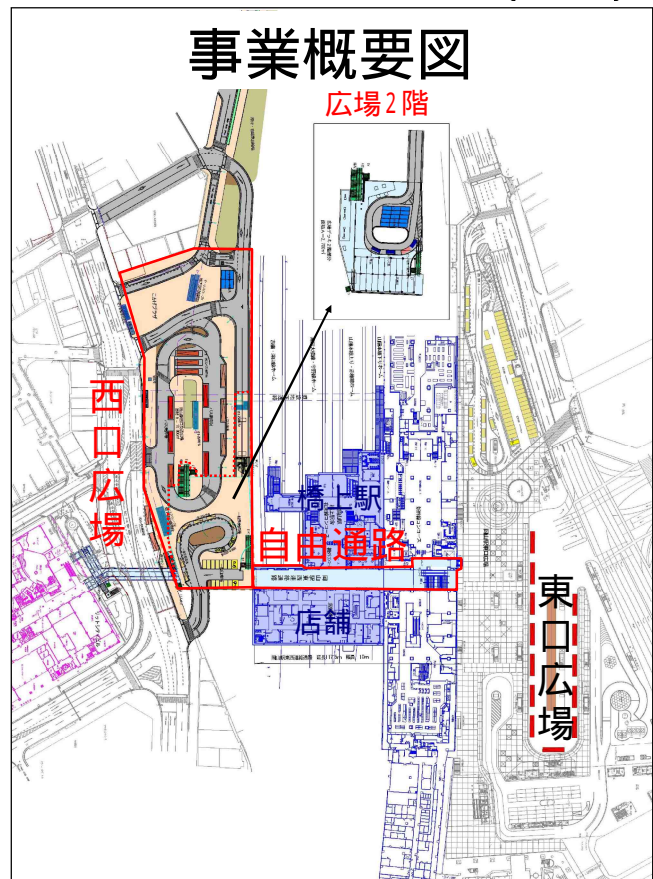
- ・敷地面積：約10,800㎡
- ・延べ面積：13,500㎡
- ・バス：乗降場9台、待機場3台
- ・タクシー：乗降場3台、プール21台
- ・一般車：乗降場7台、一時駐車場12台
- ・障害者用：乗降場2台、一時駐車場2台
- ・緊急車：1台 ・送迎バス乗降場2台
- ・階段2箇所 ・エレベーター3基
- ・エスカレーター4基(2箇所)
- ・事業期間：平成15年度～平成21年度
- ・総事業費：約107億円

2) 岡山駅東西連絡通路

(都市計画通路岡山駅東西連絡通路)

- ・延長L=117.5m 幅員W=10m
- ・階段1箇所 ・エレベーター1基
- ・エスカレーター2基(1箇所)
- ・事業期間：平成15年度～平成20年度
- ・総事業費：約38億円

(図-1)



3. 経緯

- ・平成13年 5月：JR西日本が正式な協議の席に付いた
- ・平成15年 4月：JR西日本と基本合意書を締結
- ・平成15年 7月：都市計画決定（広場・通路）
- ・平成15年 8月：事業認可（広場・通路）
- ・平成16年 1月：JR西日本と実施合意書、工事協定書、補償契約書を締結
- ・平成18年10月：自由通路供用開始
- ・平成22年 5月：事業完了

4. 整備に当たって配慮した事項

- 1) 東西連絡通路の整備による駅東西地域の一体的なまちづくり
- 2) 西口交通広場拡張による交通結節機能の強化
- 3) 駅の橋上化による利便性の向上
- 4) バリアフリー化の推進
- 5) 市民等への情報公開徹底と利用者意見等を計画へ反映

5. 事業の特徴

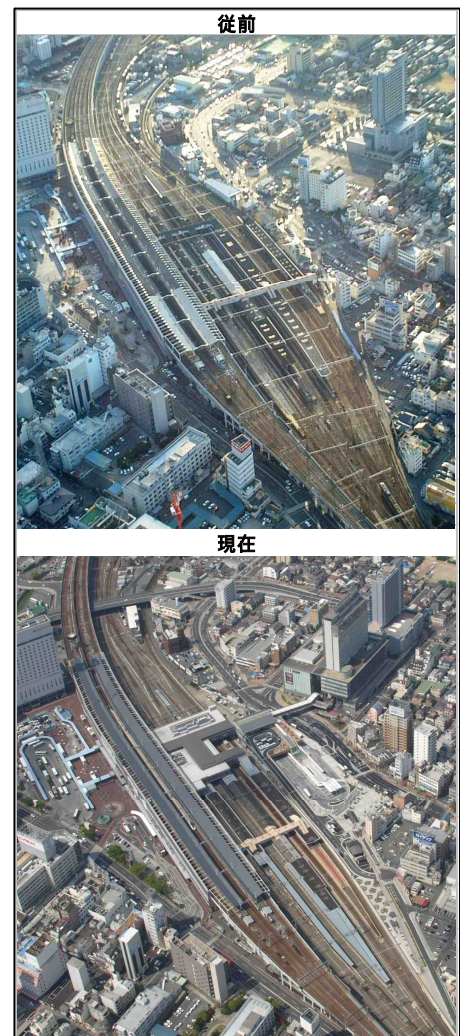
- 1) 広場を鉄道側へ拡張するとともに、一部を2層化し、利用者の移動距離を短縮
- 2) 自由通路整備に立体都市計画制度の活用

6. 西口交通広場（写真 - 1、2 参照）

- 1) 従来の西口広場は、路線バス及び送迎バスの乗降場が各2バス、タクシー降場2バス、待機場16台、一般車乗降場2バス、一時駐車10台、敷地面積が約4000㎡であった。そして、広場に面して南北に幹線道路が通っており道路の西側は、一部に市が進める再開発事業用地、その他は、低層小規模建物が密集している状況にあった。
- 2) 広場の拡張位置検討に際し、道路を跨いだ西側に拡張する案、既存敷地の中で3層構造として所要面積を確保する案、線路等を再編し、鉄道側に拡張する案の3案を作成し、利用者の利便性、機能性、自由通路との一体整備、経済性等を比較検討し、すべての面で、鉄道側への拡張が優れていたため、この案を採用することとなった。
- 3) 広場を鉄道側に拡張する方法は、地方自治体の中に鉄道事業者との協議は困難を極め、さらに金額的にも不利との意識が強くあったため、この方法を提案した前例すら無かったものの、利用者の利便性や機能性は最も優れていることが明らかであったことから、JR西日本に働きかけを行い、双方のメリット・デメリットの整理を行いながら、実現の可能性について協議を重ねた。

そして、広場用地を生み出すための線路再編計画や施工計画、各ホームの支障率など、可能な限りデータや資料の提示を求めながら慎重に議論を重ね、妥当と考えられる概算事業費を算出した結果、他の比較案よりコスト面を含めすべての面で有利な案となり、実現にこぎ着けた。

（写真 - 1）



- 4) 岡山駅の在来線は従来、5面13線、通過線が5線あった。これを4面10線に再編するとともに、通過線3線を廃止、さらに西口駅舎を廃止することで、最大幅約40mの広場敷地を生み出すことができた。
- 5) 線路再編により広場の南北に生まれた土地について、北側は、本市が購入して駐輪場を整備し、南側は、JR西日本が商業施設とホテルで構成された複合ビルを建設している。
- 6) 広場の所要面積は、13,500㎡。線路再編で既存広場敷地を含め約10,800㎡を確保し、残る2,700㎡は広場の一部を2層化する方法で確保した。
- 7) 広場の2階にタクシー乗降場及び緊急車両停車スペース、1階の駅も最も近い位置に障害者乗降場と一時駐車場、そして一般車乗降場、一時駐車場、バスターミナルを順に配置、前面道路沿いには、送迎バス乗降場を配置した。
- 8) 一般車乗降場、駐車場は、出入時の安全性に配慮してバス・タクシーとは完全に分離する方法とし、JR西日本が建設した複合ビルの1階部分を通り、広場南側の交差点から直接出入する方法とし、JR所有地には、本市が地上権を設定して通行を担保した。
- 9) 広場内の歩行者主動線上に屋根を設け、駅や自由通路から広場の各施設間は、雨に濡れない経路を確保した。中でも、広場2階には、構造材や天井材に県内産の檜を使用した大屋根を設け、広々とした歩行空間を確保している。

また、バリアフリーに配慮し、エスカレーター2箇所、エレベーター3基、多目的トイレを併設した公衆トイレを設置した。

- 10) バスターミナル内には、社団法人岡山県バス協会が、本市の道路占用許可（道路法第32条）と建築審査会（建築基準法第44条2項）の同意を得て待合所を設置した。待合所内では、バス乗車券を販売しており、トイレも設置されている。

(写真 - 2)

- 11) 広場は、一部を2層化することにより、平面の場合と比較して、交通モード間の移動距離短縮効果が得られた。

また、バスターミナルを島式にすることで、中央に設けたバス待合所からバス乗り場への移動や、バスからバスへの乗り換え移動の円滑化を図っている。

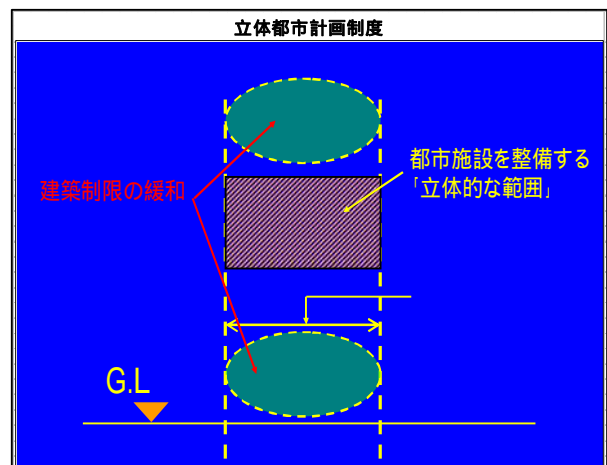
- 12) 現在の西口広場では、岡山を発着するすべての高速バスと空港リムジンバスが乗り入れており、従来の東口発着と比較して、岡山インターチェンジ又は岡山空港までの所要時間が5分程度短縮されるなど、利用環境や利用者の利便性が大きく改善されている。



(図 - 2)

7. 岡山駅東西自由通路（写真 - 2 参照）

- 1) 通路は、平成13年度の都市計画法改正により創設された立体都市計画制度（図 - 2 参照）を適用。
- 2) 平成15年の事業化にあたっては、当時事例が少なく、都市計画決定範囲をどこまでとすべきか、事業認可区域との考え方、例えば、都市計画決定範囲外となる通路を支える柱を都市計画でどのように担保するか、都市計画範囲外と



なる部分に都市計画事業費を投入することの是非などの検討で苦慮した。

結果、通路を支える柱は、都市計画法53条で担保できることを確認し、事業認可は区域であり、認可区域内であれば立体都市計画区域の上下部分にも事業費を投入することは可能との結論を得た。

3) 通路の整備に当たっては、いずれの位置でも新幹線高架橋の2階部分を通過することから、高架橋2階部分のレイアウト、駅東西広場との位置関係を考慮し、西口広場の南端から新幹線コンコースの広島側を通り、東口広場のほぼ中央を連絡する位置に設置した。

4) 通路の整備により、駅東西の通り抜け人数が約11千人/日(地下道H13.1調査)から、約33千人/日(地下道+通路H22.11調査)と約3倍に増加した。

通路利用者はこのうち約26千人/日で、これに加え、駅利用者約53千人/日、店舗利用者約23千人/日、合わせて約102千人/日が利用している。

5) 通路は西口広場の2階に連絡し、東口では、階段1箇所、エスカレーター1箇所、エレベーター1基を設けて広場に接続しており、エレベーターは通路(2階)地上、地下街(地下1階)を連絡している。

このエレベーターは、利用頻度は非常に高いことが想定されたものの、設置スペース等の問題で、15人乗りまでしか設置できなかったため、この施設規模では速度が45m/minの製品が一般的であったが、60m/minの製品を採用することで、サイクルタイムを10秒短縮でき、約7%増の輸送量を確保している。

6) 通路の建設はJR西日本に委託して施工しており、JR西日本では、通路の建設に合わせて大阪側に橋上駅、広島側に店舗開発を同時に行った。

これにより、進入路や安全管理費などを床面積で按分するとともに、柱を共用することで、コスト縮減にも繋がった。

7) 通路には、ハイサイドライトを設けて自然光をふんだんに取り入れ、晴れの国おかやまを実感できる明るい空間にするとともに、壁や柱の一部には、岡山を代表する万成石や備前焼タイルを使用し、本市の玄関口にふさわしい施設となっており、現在では、多くの利用者で賑わっている。

8. 橋上駅・店舗開発

1) 通路の広島側に約2,100㎡の商業施設を開発、新幹線高架2階部分と合わせ、約3,700㎡の商業施設が新設され、飲食、スーパー、物販が出店している。

2) 通路の大阪側に約2,700㎡の橋上駅を設けている。

3) 線路の再編、店舗開発と駅橋上化により都市のにぎわい創出に繋がったとともに、新幹線・在来線の乗り換え時間も短縮され、利用者の利便性向上に繋がった。



9. その他

- 1) 岡山県が主催する「おかやまUDコンテスト - わがまちのみんなのたてもの2010」において優秀賞（県民賞）を受賞した。
- 2) 平成24年度、全国街路事業コンクールにて特別賞を受賞した。

10. 終わりに

この事業は、昭和60年代に構想が出されから、様々な調査や検討を重ねてきた本市の長年の懸案であり、平成15年ようやく事業化にこぎ着けた後、6年の歳月と145億円の事業費をかけた本市では最大級のプロジェクトであった。

完成した現在では、駅の交通結節機能の向上はもとより、駅東西地域の回遊性向上など、駅周辺の賑わいは、予想以上であり、本市のまちづくりに大きく寄与したものと確信している。

